

2. これからのまちづくりに向けて

2.1 これからのまちづくりの土台となる考え方

2.1.1 文部科学省補助事業「DESIGN-i」の採択

これまで、東広島市では、学園都市建設及び先端技術研究開発拠点の形成を進めてきたが、急速な人口減少・高齢化、ライフスタイルや社会構造の変化など、時代の推移とともに、本市を取り巻く課題は刻々と変化しており、このような課題の解決とさらなる発展を目指し、新たな取り組みが必要となってきた。

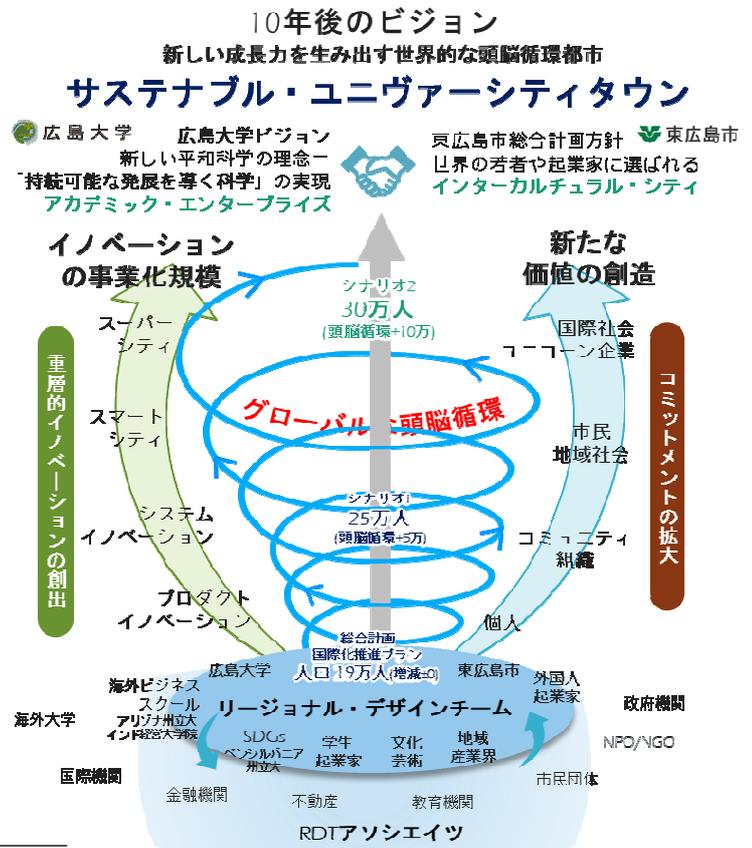
そこで、文部科学省の支援施策である「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（通称「DESIGN-i）」に着目することとした。

これは、地方自治体と地域の大学が中心となってチームを構成し、「地域のポテンシャルを最大限引き出すための未来社会ビジョン」を設定するとともに、当該ビジョン達成に向けて、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にも繋がる、解決すべき地域が抱える多種多様な社会課題を見つけ出す、さらに、当該社会課題を技術課題へと転換させ、将来的に地域内外の大学や研究機関が持つ研究シーズを取り込みつつ、小規模試行実験・社会実装の取り組みへ繋げることを想定し、科学技術イノベーション（STI）を活用した解決策を構築する政策である。

令和元年7月31日に東広島市と広島大学が共同提案した「アカデミック・エンタープライズが駆動するサステナブル・ユニヴァーシティ・タウン構想」が2019年度支援対象地域として採択された。

- この構想は、10年後のビジョンとして、
- ・広島大学の「アカデミック・エンタープライズ」(※)を駆動しながら、本学の新しい平和科学の理念である「持続可能な発展を導く科学」を創生・展開・まちづくりに活用すること。
 - ・東広島市の総合計画やそのインターカルチュラル・シティ構想を、民間の知見も生かしながら戦略的に推進することで、世界の若者や起業家に選ばれる環境を構築・展開すること。

この2つを両輪として当該地域がグローバルな頭脳循環のハブとなり、人口増と民主導の活性化を達成しながら、将来的に日本のロールモデルのひとつとなりうる「サステナブル・ユニヴァーシティ・タウン」を創りあげることである。



※ アカデミック・エンタープライズとは

アリゾナ州立大学が掲げる高等教育の新しい運営理論。公的資金以外の収入基盤を多様化し、地域社会の解決に目を向けながら、先端的な学術・研究の実施を展開していくもの。

このため、段階的に得られるコミットメントの拡大を通じて、未来ビジョン達成への道筋を明らかにするとともに、新たな価値の創造を目指す。あわせて、東広島において、広島大学を中心とした世界標準での起業教育、インキュベーション支援機能の飛躍的な拡充を通して、地域の資源、地域のステークホルダーと連携して、地域課題を克服しながらイノベーションを起こし、SDGsの目標達成の実現を目指すこととした。

なお、この取組みの中で、全米有数の発展を遂げているアリゾナ州立大学を視察し、新たなまちづくりの可能性を追求していくこととなった。

2.1.2 Town & Gown 構想

本市は、アリゾナ州立大学（ASU）と地元テンピ市がまちづくりに成功している取組みを参考に、持続可能な未来のビジョンを共有する広島大学と連携し、地方創生モデルとして、地域の発展と大学の進化を目指す Town & Gown 構想に着手した。

Town & Gown 構想は、日本を地域から躍動させるため、持続可能な未来のビジョンを共有する大学が立地する地域の自治体と大学が包括的、日常的、継続的、組織的な関係を構築の上、自治体の行政資源と大学の教育・研究資源を融合しながら活用することで、地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成のための地域共創の場^(※1)の形成を通じて地方創生を実現し、持続的な地域の発展と大学の進化をともに目指す構想である。

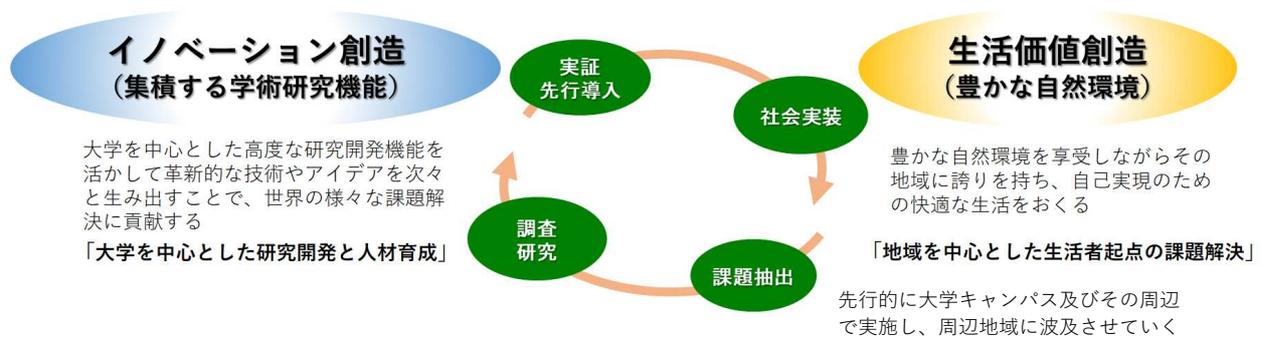
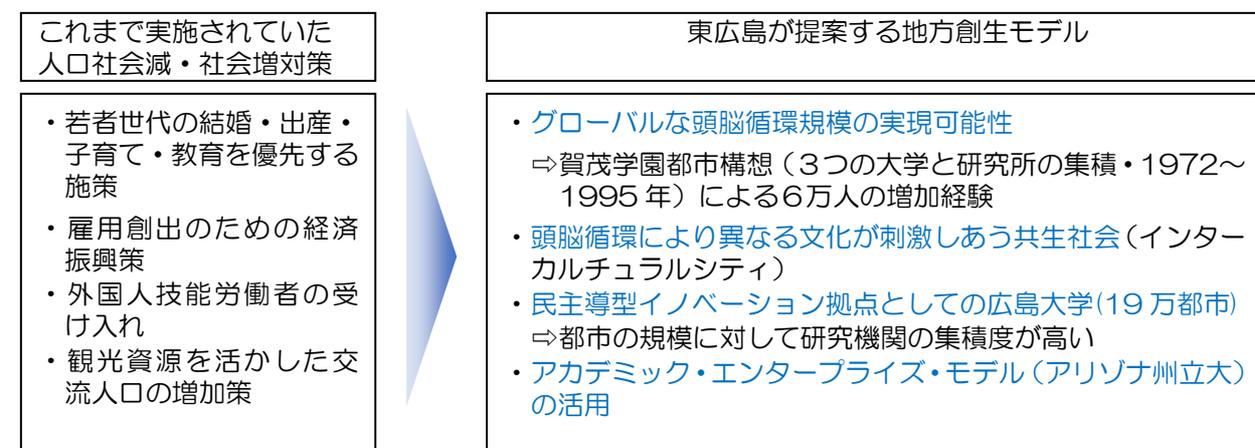


図 持続可能な未来都市構築のイメージ

※ 地域共創の場とは

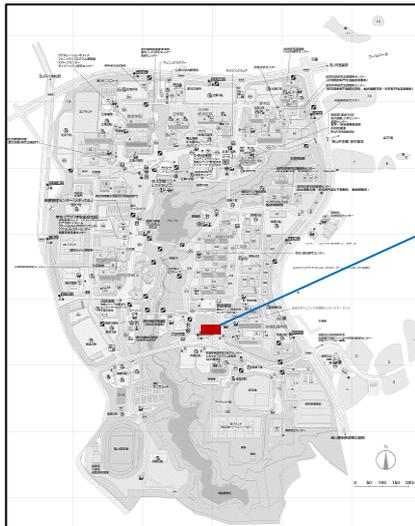
自治体、大学、民間企業、起業家や投資家、市民等によって連携・構築された製品やサービスを取り巻く共通の収益環境の場（産学官民連携エコシステム）

「Town & Gown 構想」の実現に向けて、自治体が大学と共にまちづくりを進めるため、令和2（2021）年4月に「Town&Gown Office 準備室」を設置し、様々な取組みを開始した。

令和3（2021）年10月には、広島大学フェニックス国際センターMIRAI CREA（ミライクリエ）開設にあわせて、「Town&Gown Office」（略称 TGO）を正式に設置し、以下の取組みを実施することとした。

[Town&Gown Office の具体的な取組み]

- ・地域課題の解決に資する科学技術イノベーションの社会実装と人材育成の推進
- ・民間企業、起業家や投資家、市民と連携した産学官民連携エコシステムである地域共創の場の形成



フェニックス国際センター
MIRAI CREA（ミライ クリエ）

（出典：広島大学 HP）

図 広島大学キャンパスマップ

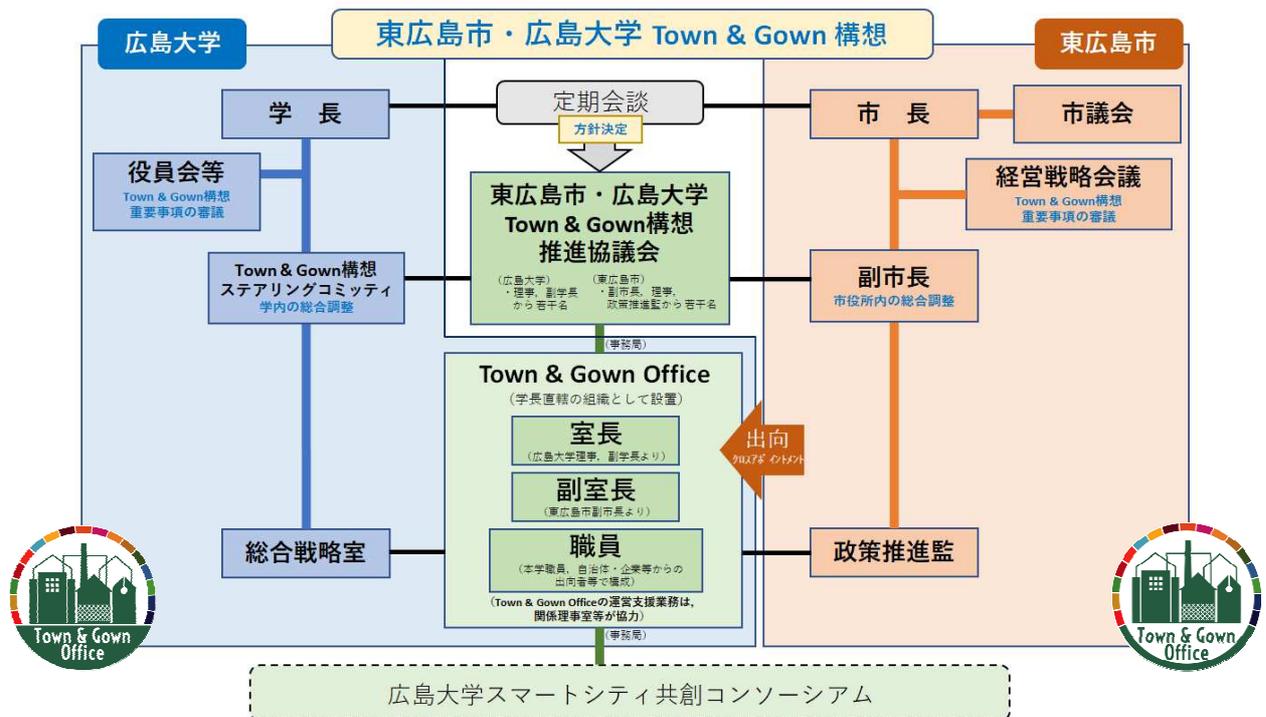


図 Town & Gown 構想具現化に向けた組織体制

この取組みには、Society 5.0 やカーボンニュートラル、さらにはデジタル田園都市国家構想などの持続可能な未来社会像実現のために、民間企業の持つノウハウと資源、行政機関のコミットメントを融合しながら、広島大学のメインキャンパスである東広島キャンパスを活用し、スマートキャンパスまたはスマートシティの形成に資する活動を行い、その成果を周辺地域に社会実装することでイノベーションを創出するための枠組みが必要であることから、東広島市、広島大学、そして Town & Gown 構想に賛同した企業による共創コンソーシアムの形成を TGO 中心に進めてきた。

この共創コンソーシアムの設立に先立ち、参加予定者による勉強会を開催しながら、Town & Gown 構想を具現化するためのアイデアを様々な観点から議論すると共に、専門分野ごとに9つの分科会を立ち上げ、スマートシティの形成につながる短期・中期・長期的な可能性を検討しており、広島大学東広島キャンパス及びその周辺エリアにおいて、これらの取組みを表現することを目指している。

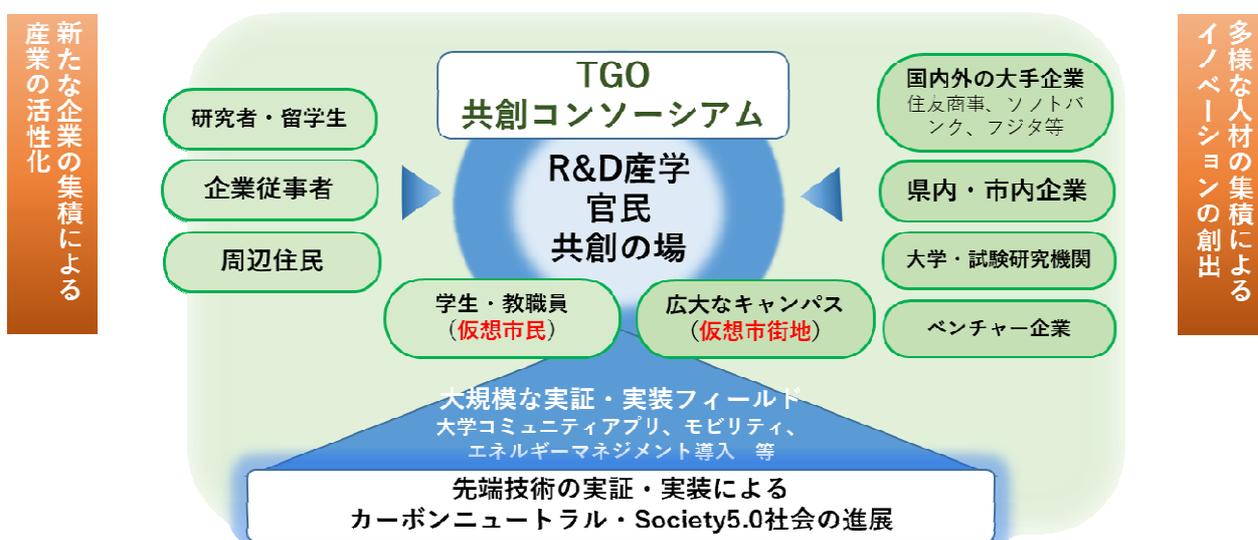


図 共創プラットフォームのイメージ

表 分科会

| No. | 分科会 | 議論項目 |
|-----|-----------------------------|---|
| 1 | ランドデザイン・ペルソナ・企業誘致 | ランドデザイン・ペルソナ・企業誘致・CCRC |
| 2 | 共創コンソーシアム・資金調達・共同経営 | 共創コンソーシアム・年度別事業計画・資金計画・SPC 組織構成 |
| 3 | TGO アプリ・スマートクラスルーム・DX・都市 OS | 電子学生証・職員証デジタル化・TGO アプリ(スマートクラスルーム)・住民 DX・個人情報保護・都市 OS |
| 4 | 信託化・インキュベーション拠点 | 信託化・SkySong の設計・大学発スタートアップ |
| 5 | モビリティ・サブスク型交通サービス | 自動運転・オンデマンド・リテイルとの協業・ライトモビリティ・物流 |
| 6 | カーボンニュートラル・エネルギー | 再生可能エネルギー・エネルギーマネジメント・カーボンニュートラル・省エネ・電化推進・EV シェアリング |
| 7 | 通信インフラ・ペーパーレス | L5G オープンラボ・L5G/Autono-MaaS・5G 基地局シェアリング・ギガスクール・ペーパーレス |
| 8 | ヘルスケア | 健康増進・まちづくりに溶け込む医療連携・地域課題解消 |
| 9 | インターナショナルスクール・教育 DX | インターナショナルスクール・DX 人材育成・生涯学習・幼稚園誘致・国際競争力のある人材 |

2.2 これからまちづくりをしていく地区

2.2.1 モデル地区の選定と現状

これからのまちづくりを実際に取り組んでいくため、先行的に実証・実装を行うエリアとして、広島大学及び広島大学に隣接した地区をモデル地区とする。

モデル地区が属する西条地域は、JR 西条駅を中心に各種の公的機関が集積するとともに、大規模小売店舗などが立地している。また、交通の結節点として鉄道やバスによる公共交通ネットワークが広がっており、都市基盤の整備に伴い、人口の増加や郊外への店舗の出店が続く中で、中心部の周辺や交通の利便性の高い地域から序々に市街化が進行しつつあるものの、市街地周辺部には、豊かな田園風景が広がっている。

本地区は、西条地域の西南端にあり、JR 西条駅と4車線の幹線道路であるブルーバールで結ばれ、JR 西条駅からバスで15分程度のところに位置している。この地区は、広島大学を中心に東側に広島中央サイエンスパーク等の産業拠点、北側には下見学生街など、本市がこれまで進めてきた学園都市づくりを象徴する地区が形成されており、活力を牽引する地域となっている。

また、本地区東側には、国指定史跡である鏡山城跡の麓に整備された鏡山公園が整備され、サクラの名所として観光スポットがあるなど、様々な魅力を備えている地区である。

(1) 人口・世帯数

広島大学は鏡山1丁目に位置している。当地区に隣接する地区の概況は概ね以下のようなものである。

- 北側の西条町下見や西条町5～7丁目において人口密度が高い。また、単身世帯が多い。
- 南側の西条町田口は、鏡山1丁目に隣接する地区の中では人口・世帯数ともに最も多いが、人口密度は北側のエリアに及ばない。
- 東側では、鏡山2丁目において単身世帯が多く、鏡山北や鏡山1丁目は二人以上の世帯が多い。しかし、山が位置していることから人口密度は低い。

地区別の人口等の状況を次頁に示す。

(2) 都市計画

1) 用途地域

地区全体が用途地域に指定されているのは、西条町下見、西条町下見5～7丁目、鏡山1丁目および鏡山3丁目である。他の地区は、一部が用途地域に指定されている。

各地区に含まれる区域区分の指定状況を次の図および表に示す。



出典：東広島都市計画マスタープラン
図 東広島地区区分図

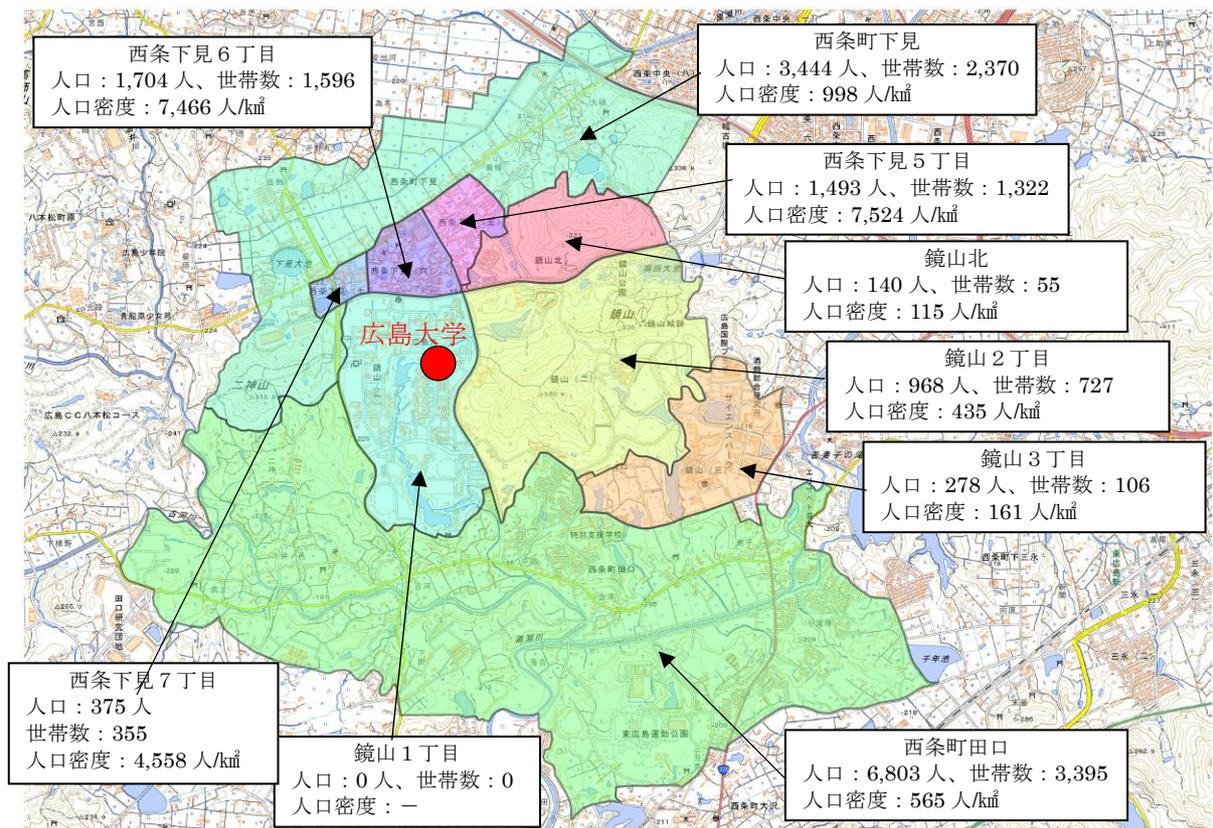


図 小地域別の人口・世帯数および人口密度（2015年の国勢調査結果）



図 広島大学周辺の用途地域（令和2年度時点）

表 各地区に含まれる区域区分

| 地区名 | 地区内の区域区分 |
|---------|---|
| 西条町下見 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2種住居地域 ● 近隣商業地域 |
| 西条下見5丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2種住居地域 ● 近隣商業地域 |
| 西条下見6丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2種住居地域 ● 近隣商業地域 |
| 西条下見7丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第2種住居地域 |
| 鏡山北 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1種中高層住宅専用地域 ● 第2種住居地域 ● 近隣商業地域 |
| 鏡山1丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1種中高層住宅専用地域 ● 第2種住居地域 ● 近隣商業地域 |
| 鏡山2丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1種中高層住宅専用地域 ● 近隣商業地域 ● 準工業地域 |
| 鏡山3丁目 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1種中高層住宅専用地域 ● 準工業地域 ● 第2種住居地域 |
| 西条町田口 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第1種住居地域 ● 第1種中高層住宅専用地域 ● 第1種低層住居専用地域 ● 第2種住居地域 ● 第2種中高層住居専用地域 |

2) 地区計画

当モデル地区周辺では、『下見学生街地区地区計画』、『広島中央サイエンスパーク地区地区計画』が策定されている。以下に、各地区計画の概要を述べる。

①下見学生街地区の地区計画

2009年に決定された本地区区計画は、下見学生街地区において、無秩序な宅地化を防止し活気と魅力ある学生街および周辺環境と調和のとれた秩序ある住宅地の形成を目標としたものである。

対象地区は西条下見5～7丁目、西条町下見及び鏡山北の各一部である。当地区において、商業施設や娯楽施設等の立地を誘導する『学生街中心ゾーン』と市民の居住する一般住宅の立地を誘導する『居住ゾーン』に区分するという土地利用の方針が示されている。

上記に加え、都市施設の整備方針として地区内幹線道路の配置計画等が、建築物の整備方針として用途の制限等が定められている。

以下に、本地区区計画の計画図を示す。

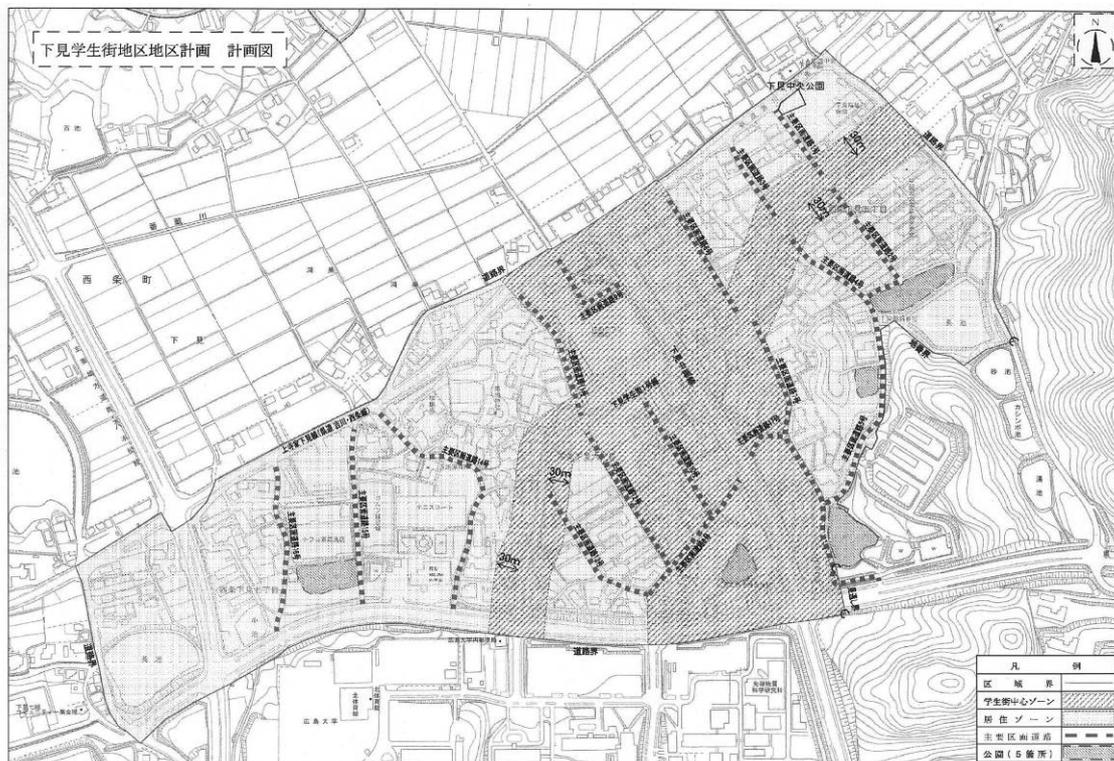


図 下見学生街地区 地区計画 計画図

(出典：東広島市[平成21年12月18日-市告示第422号])

②広島中央サイエンスパーク地区の地区計画

2006年に決定された本地区計画は、「広島中央地域集積促進計画」に基づいて業務用地の整備を行った地区において、研究団地としての機能の維持及び増進と周辺地域の環境保全を目標としたものである。

対象地区は、鏡山三丁目の1部である。当地区において、研究拠点の形成および周辺環境への配慮といった土地利用の方針が示されている。

併せて、建築物等の用途の制限等の建築物等の整備の方針が示されている。

以下に、本地区の計画図を示す。

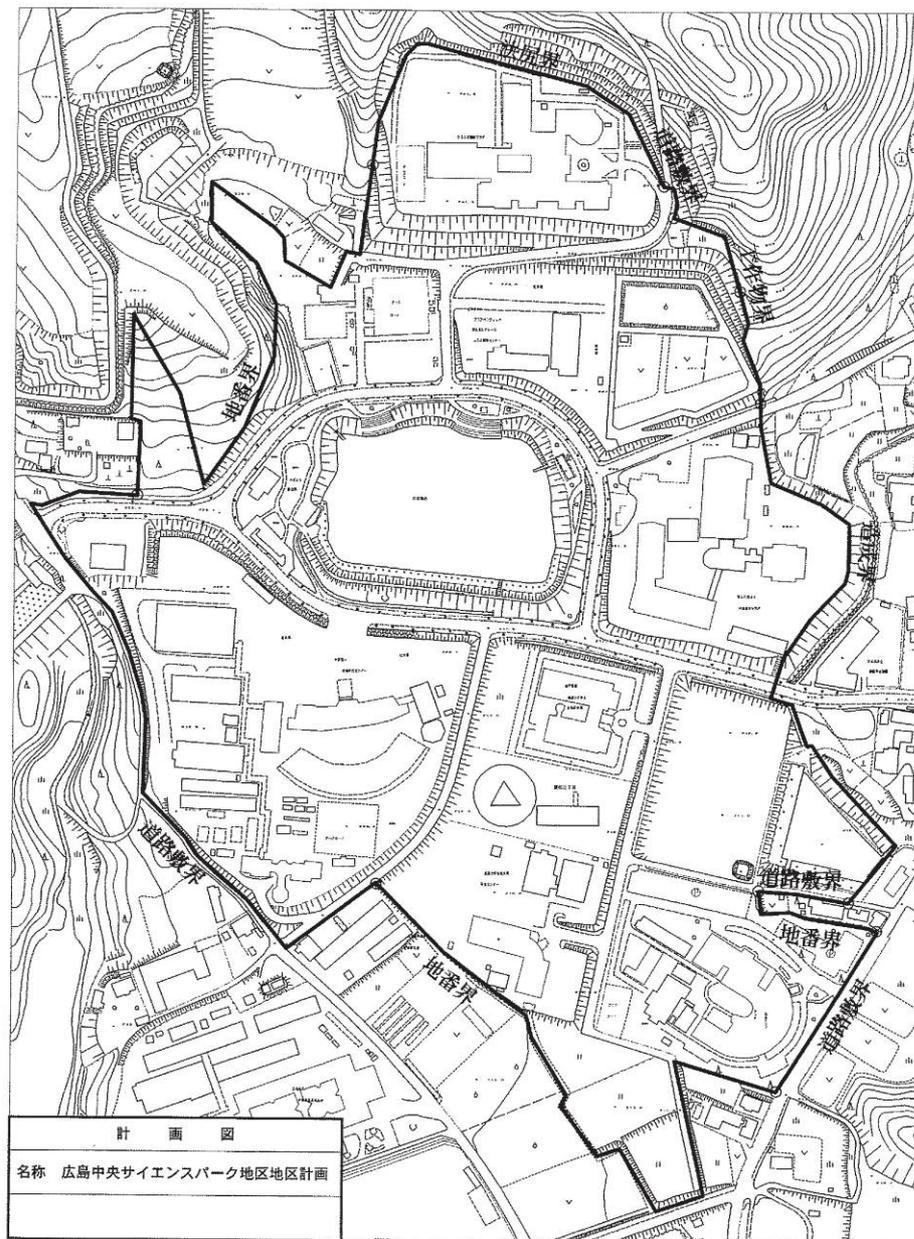


図 広島中央サイエンスパーク地区 地区計画 計画図
(出典：東広島市[平成18年10月26日-市告示第339号])

3) 下水整備状況

当地区では、大学構内や北側の西条下見 5～7 丁目では概ね供用されているものの、南側の田口では、供用区域が一部に留まっており、多くの宅地が供用されていない状況がうかがえる。

以下に、下水道の供用開始区域を示す。

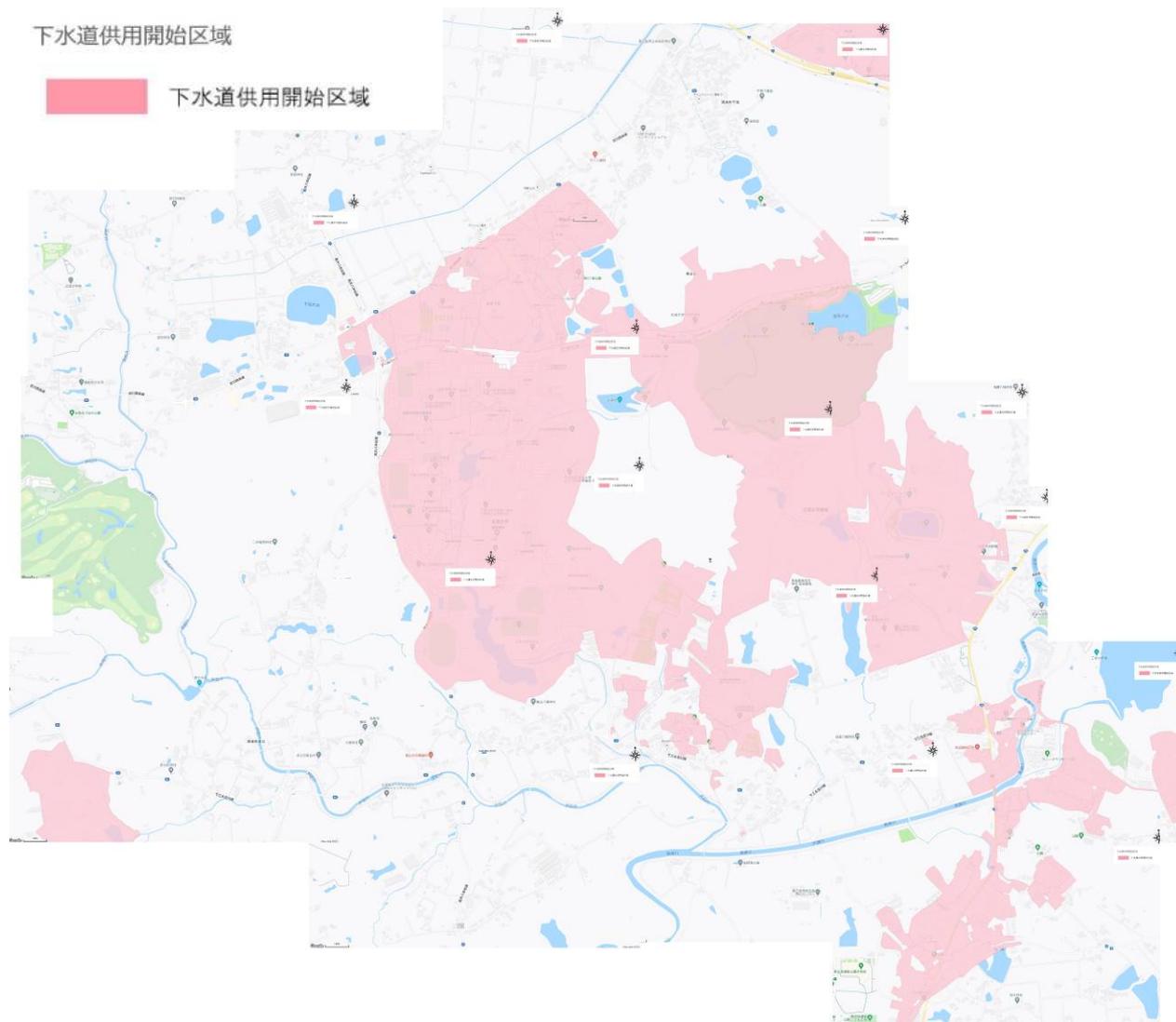


図 下水道供用開始区域図

(ひがしひろしまっぷ (<https://www.sonicweb-asp.jp/higashihiroshima/>) の図を加工)

(3) バス路線

当地区におけるバス路線は、大学と西条駅・東広島駅を結ぶものが中心である。特に西条駅方面は、1日に50便以上が運行しており利便性は高い。

以下にバス路線図を示す。



図 バス路線図 (出典：ひがしひろしまっぴ、一部加筆)



図 バス路線図

(出典：https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/138241/201703bus_route_map-1.pdf)

(4) 災害ハザード

当地区周辺では、鏡山および二神山の一部地点で急傾斜地の特別警戒区域が指定されている。大学構内や西条下見5～7丁目には、土砂災害および洪水氾濫の危険区域がほとんどない。南側の田口では、黒瀬川の沿川に沿って浸水想定区域が指定されているものの、危険性の低い土地が広範に広がっている。

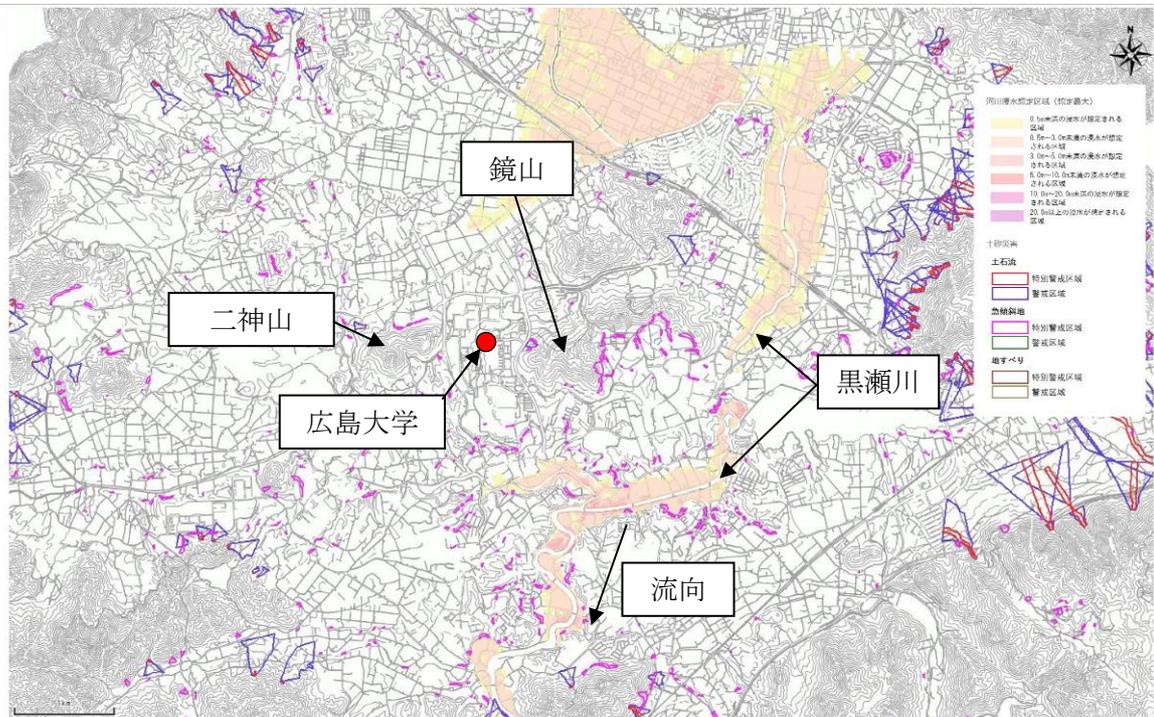
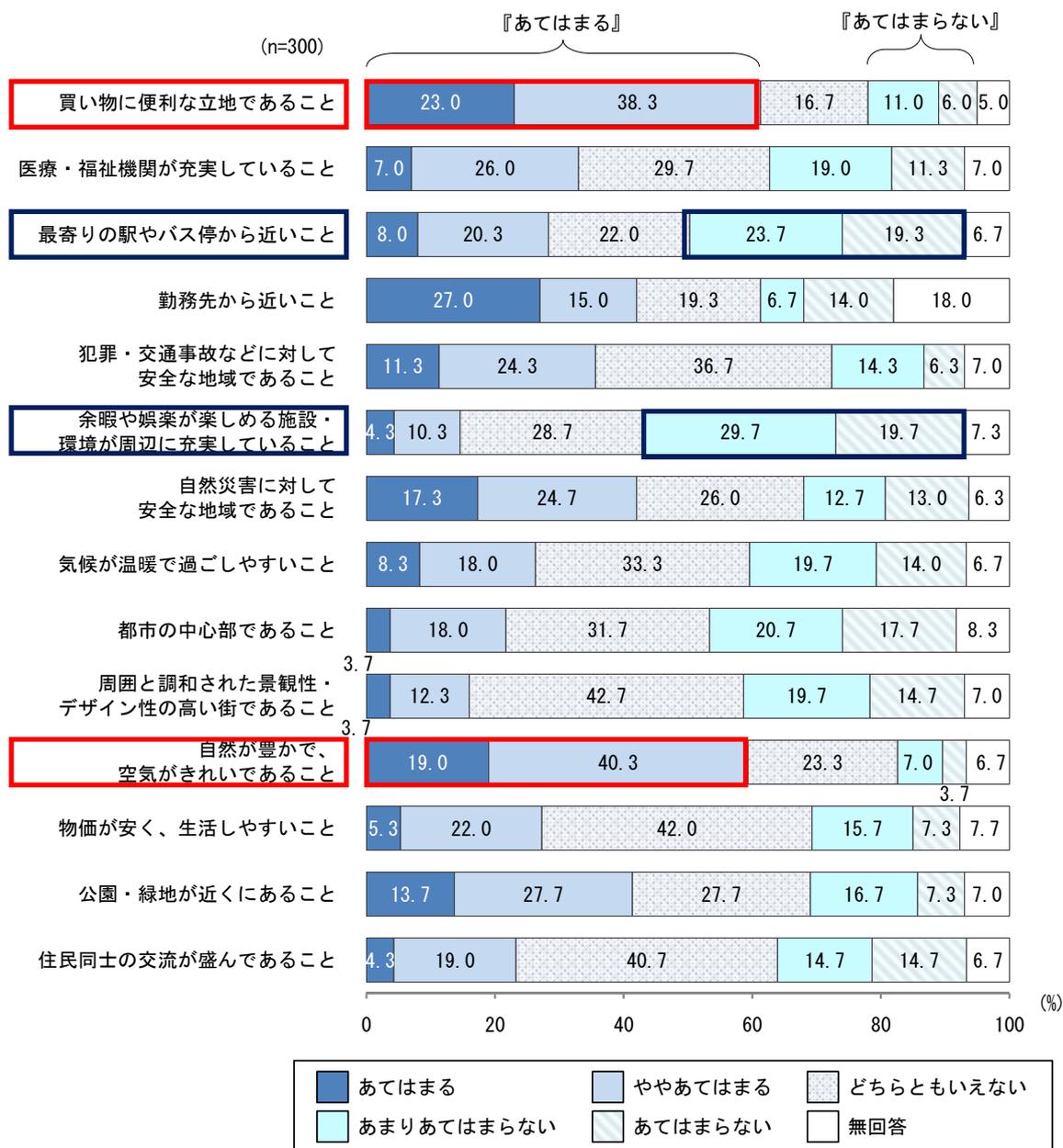


図 ハザードマップ (出典：ひがしひろしまっぷ、一部加筆)

2.2.2 モデル地区におけるまちづくりに関する評価

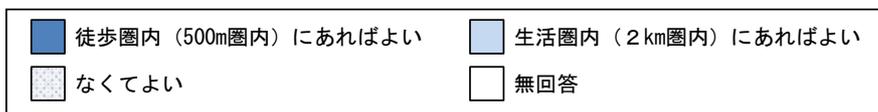
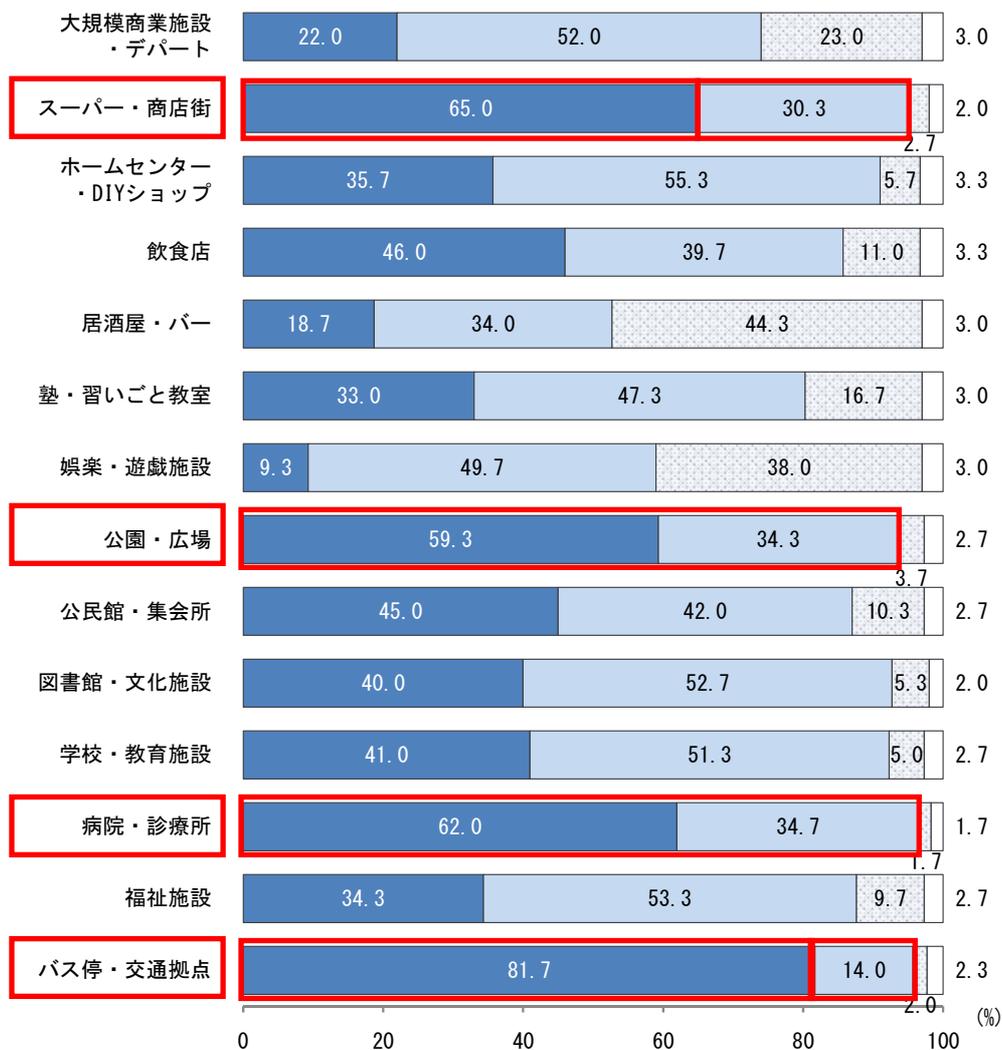
(1) 地域住民によるまちの評価

これまでも大学と連携したまちづくりに取り組んでいる下見地区の住民に行ったアンケートで、「下見地区にお住いの理由」についてきいたところ、「買い物に便利な立地であること」「自然が豊かで空気がきれいであること」が評価されている。逆に「余暇や娯楽が楽しめる施設・環境が充実していること」「最寄りの駅やバス停から近いこと」の評価が低くなっている。



また、住む『場所』から徒歩圏内（500m 圏内）及び生活圏内（2 km 圏内）にあればよいか、なくてよいかをきいたところ、徒歩圏内では、「バス停・交通拠点」「スーパー・商店街」、生活圏内を含めると「病院・診療所」「公園・広場」を求める意見が高い。必要性が高い商業施設については、一定の評価が得られているが、交通拠点については、不足していると評価されている。

同様の質問を大手企業の社員にきいたところ、上位を占める項目については概ね同様の傾向をしめているが、外国人が求める施設で「飲食店」が上位にあげられる点が異なっている。
(n=300)



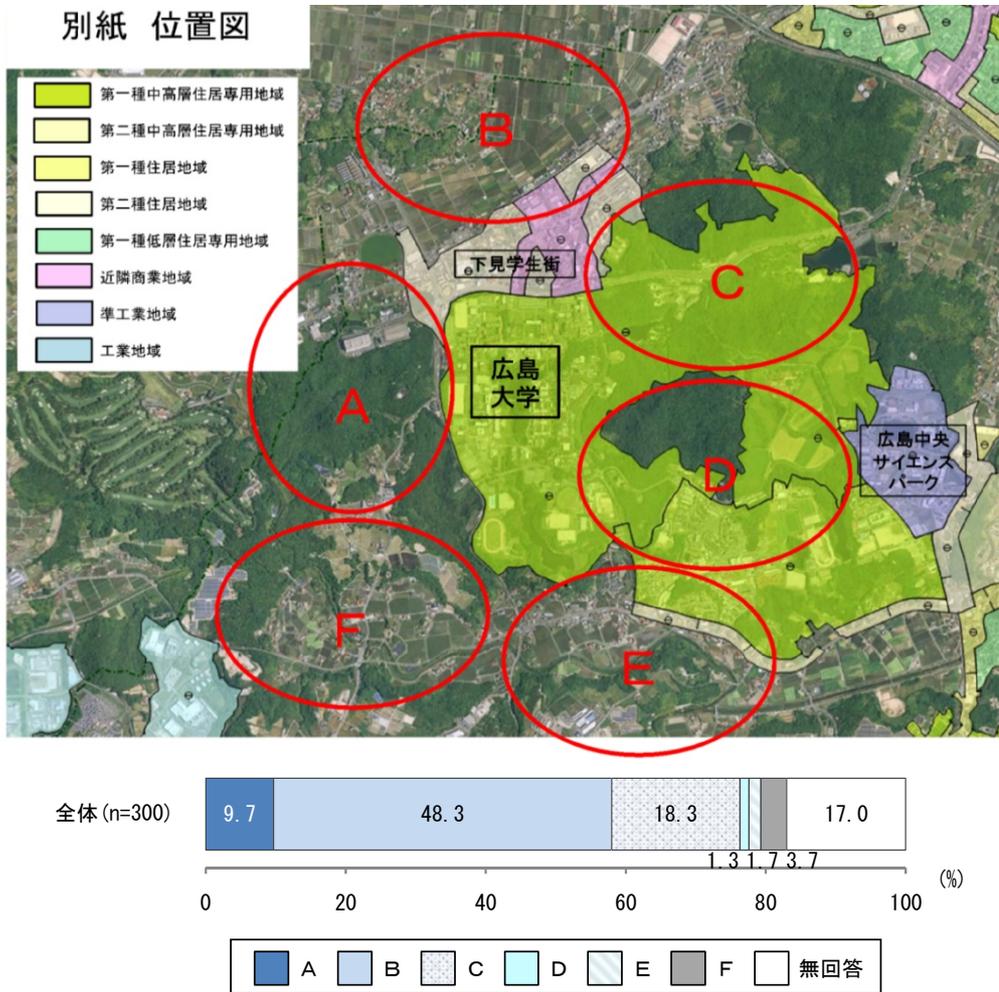
企業用（外国人向け）抜粋

企業用（日本人向け）抜粋



(2) まちづくりの展開エリアについて

下見地区の住民に行ったアンケートで、「求める住環境に欠けているものを実現したいエリア」についてきいたところ、下見学生街の北側「Bエリア」との回答が48.3%と最も高く、次いで大学キャンパスの北東側「Cエリア」(18.3%)の順となっている。

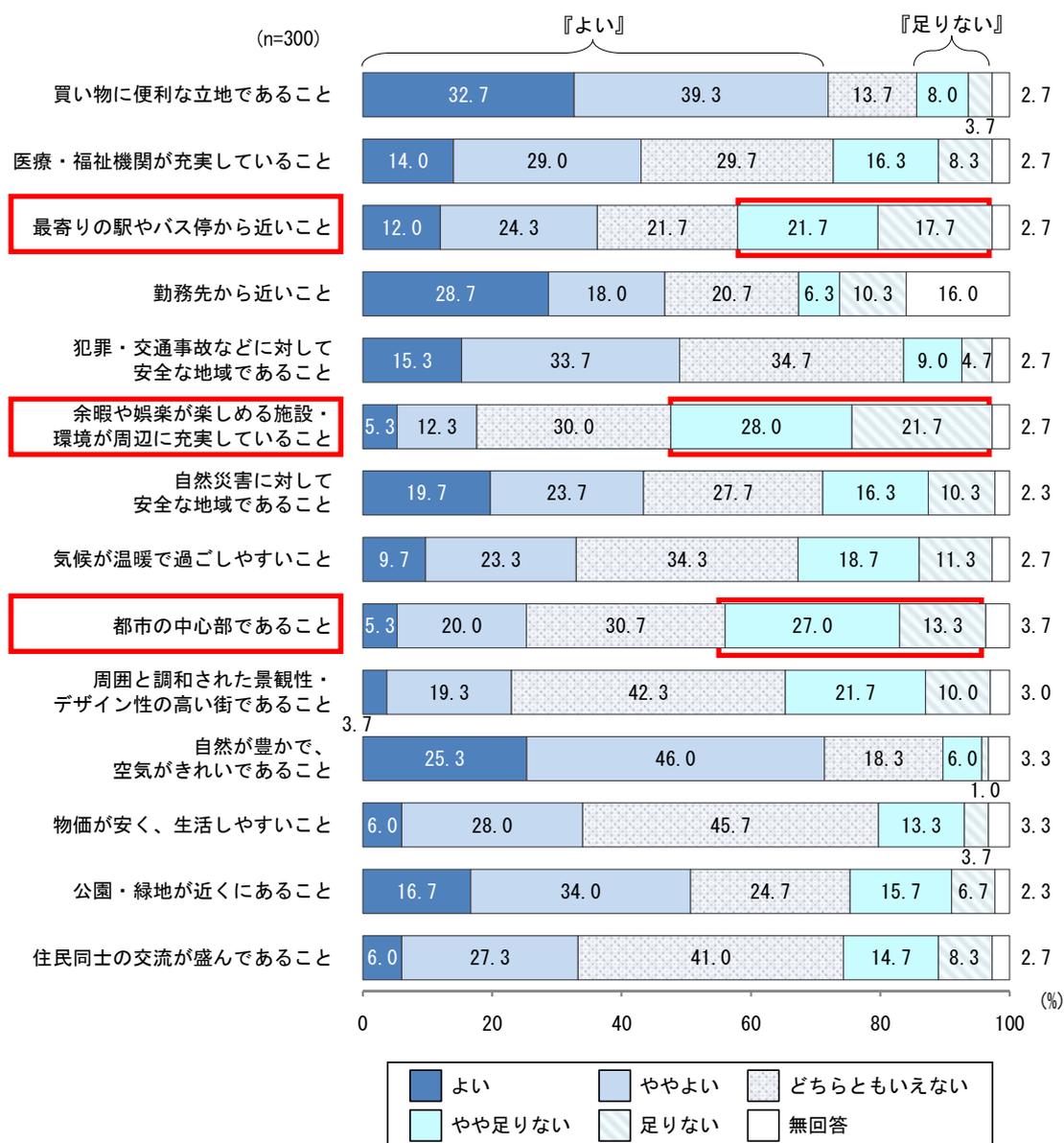


2.2.3 モデル地区におけるまちづくりの課題

(1) 地域住民によるまちの課題認識

下見地区の住民に行ったアンケートで、「下見地区のよいところ、足りないところ」をきいたところ、「余暇や娯楽施設の充実度」「都市の中心部であること」「最寄りの駅やバス停から近いこと」の評価が低くなっている。また、自由意見では、交通渋滞に対する不満や、インフラ整備や公共交通機関の充実を求める意見が多くあげられている。

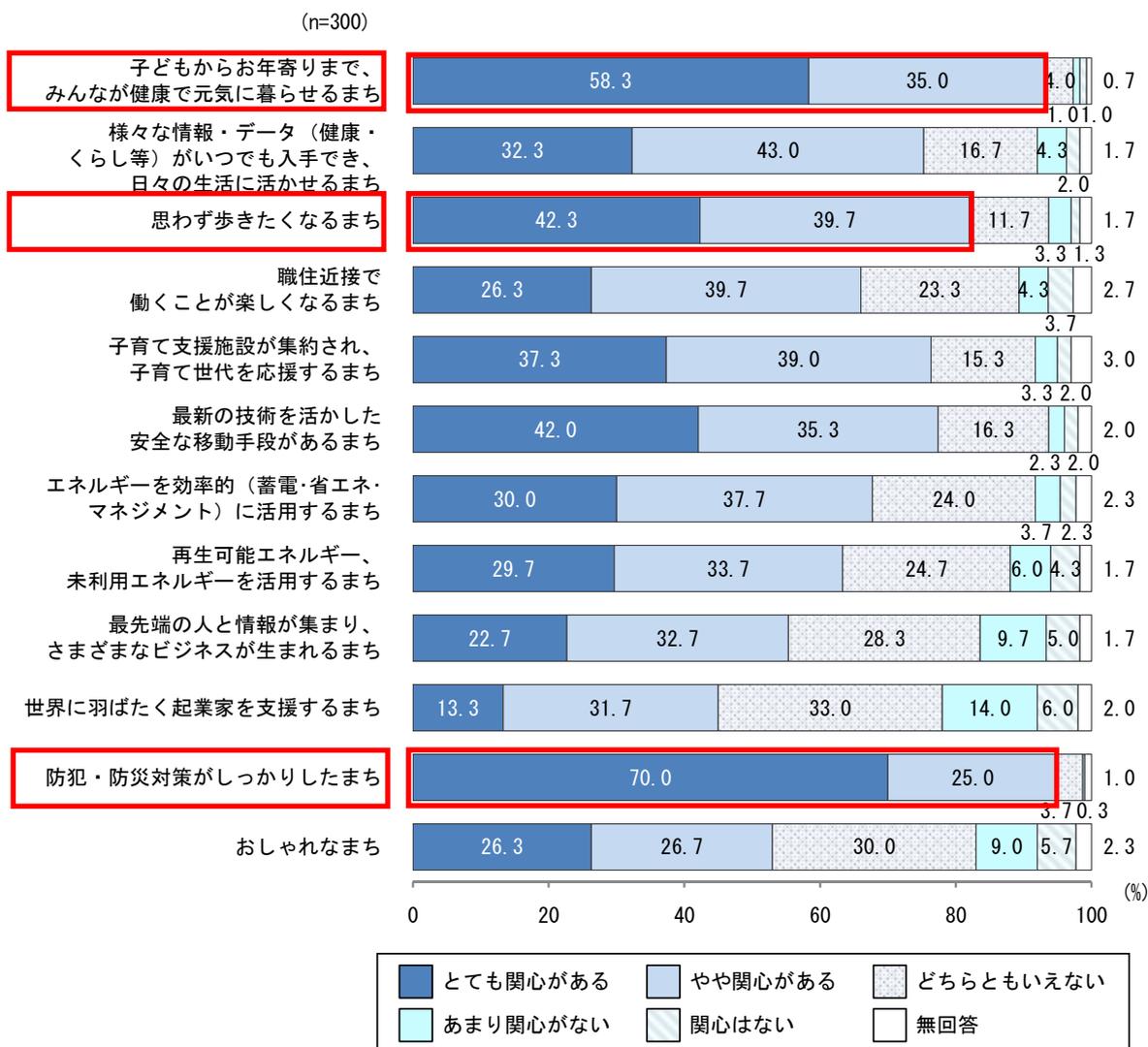
| No. | 自由意見で多く寄せられた意見 | 意見数 |
|-----|--|-----|
| 1 | 交通の便、公共交通機関の充実、アクセスに関すること | 20 |
| 2 | インフラ整備、渋滞緩和、道路の整備に関すること | 19 |
| 3 | 安全、安心、防犯対策、治安に関すること | 9 |
| 4 | お年寄り・子ども・体の不自由な人などに優しい、誰もが住みよい街づくりに関すること | 8 |
| 5 | 医療、福祉サービスの充実に関すること | 7 |
| 5 | スポーツ、障がい者施設など、施設の充実に関すること | 7 |



(2) 市民がのぞむまちの将来像

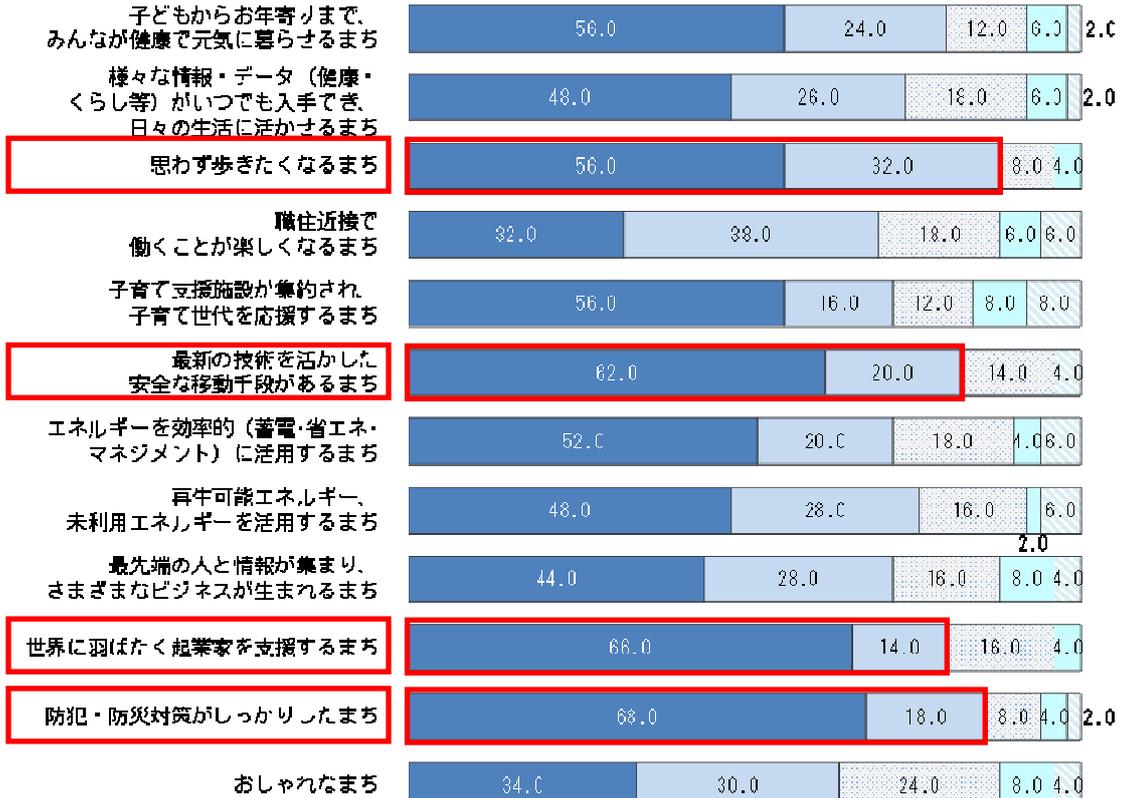
アンケートにより、あなたが住むまちの将来像として、関心度をきいたところ、「子どもからお年寄りまでみんなが健康に暮らせるまち」「防犯・防災対策がしっかりしたまち」「思わず歩きたくなるまち」を求める意見が多くなっている。

同様の質問を大手企業の社員にきいたところ、住民から高い関心を示された項目は同じ傾向にある一方、うち外国人からは「世界に羽ばたく起業家を支援するまち」「最新の技術を生かした安全な移動手段があるまち」に特に強い関心が示されている。



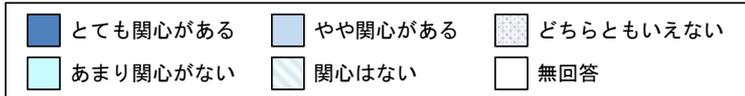
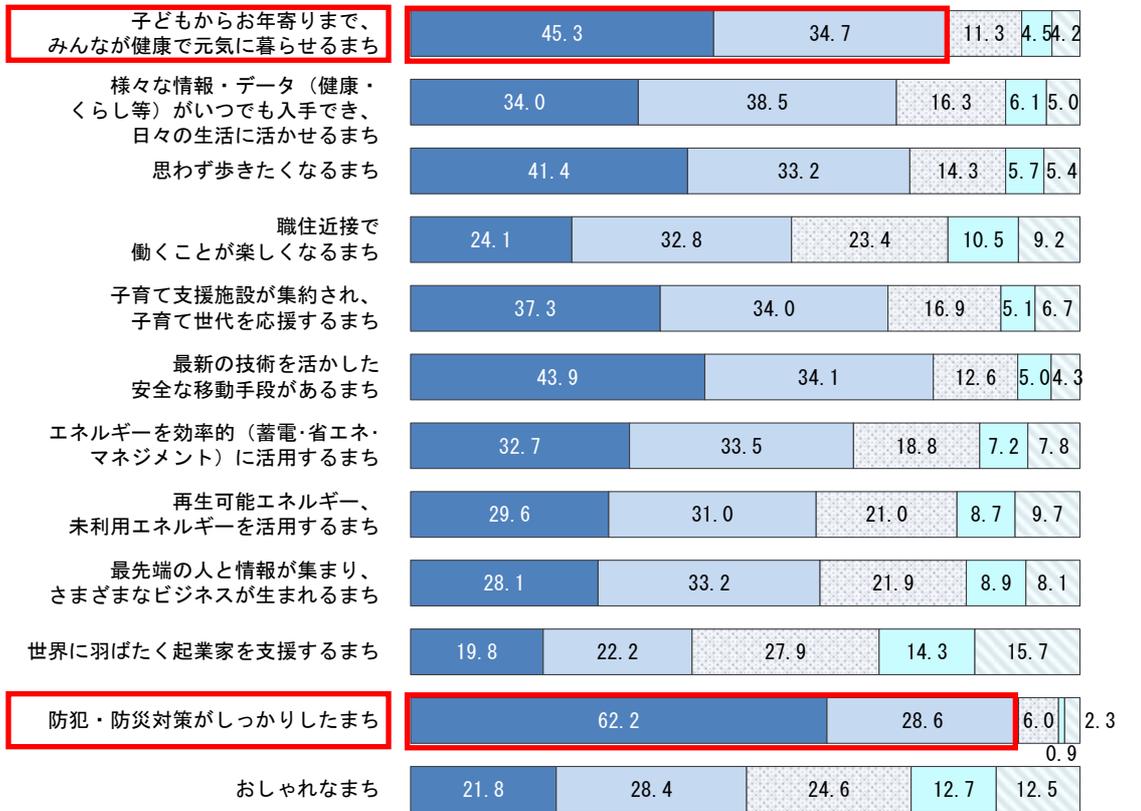
企業用（外国人向け）

(n=50)



企業用（日本人向け）

(n=1,661)



(3) 広島大学関係者による課題認識

2020年に行ったDESIGN-iアンケートでも様々な課題がとりあげられている。公共交通への課題や自然環境への評価は住民アンケートと同様の傾向であった。また、大学や産業に関して評価が高い反面、これらを十分に生かしきれていないことが課題だと認識されている。

| No. | 現況課題等（抜粋） | 属性 |
|-----|--|-------------|
| 1 | 公共交通機関が貧弱。東京に集積が進む大きな要因は国内外とのアクセスの良さであり、これを軽視してはいけない。 | 不明 |
| 2 | 広島大学の現状は、九州四国中国地方といった地方の秀才を集め、東京に送り出す機関としては優秀であるが、学生たちを引き止め地方都市で活躍してもらうことに失敗 | 学生 |
| 3 | 商業、工業、農業、漁業、林業、運輸業、交通の拠点をすべて持っているようなもので、多くの可能性がある。すぐ隣に100万都市である広島市があることです。地方都市かつ林業や農業が盛んな地域のすぐ近くに100万人の市場がすぐそこにあることは他の地域には少ない非常に大きなアドバンテージ。岡山、福山と広島の間であり、さらに呉にも近いという交通の要所であります。さらに鉄道や新幹線もあり広島空港も近くにあるため、ハブ地域として発展することも可能です。さらには、広島大学があることも大きな魅力。高齢化が進んでいながら、学園都市であるため若者の人口も多いという特殊な人口構成。 | 学生 |
| 4 | 海外では、広島県がまだ被爆から十分に立ち直っていない、というイメージが定着している上に、東広島について知っている人はほとんど無く、知ろうとしても情報も少ない。カフェ、ジム、美術館、本屋など、そうしたことのできる場所がほとんど無い。本屋なども、専門書を置いているような大きな店舗は存在しない。 | 広島大学 助教授 |
| 5 | 現在の東広島市には、わざわざ遠隔地から移住してまで得たいと思えるような刺激がない。クリエイティブな人材を集めるには、中途半端な土地になってしまっている。 | 学生 |
| 6 | 広大キャンパス周辺の底部の平地は海拔200mもあり、地球温暖化の海面上昇でも研究や事業の妨げはおきない。空港も高速道路も水没する可能性がない土地である事を説明する。地球温暖化で海面が上昇すれば、東広島の土地の価値は必ずあがります。 | 学生 |
| 7 | 東広島は、少し寒いのが空気がとても澄んで美味しく、国内有数の酒蔵を有し、瀬戸内の美味しい魚介も入ってくる美食文化の素を感じられる街である。広島大学が存在し、大学が移転されたことで、企業も誘致され、ユニークな要素を持つ街となっている。これらの特徴は現状では「点」とし分散しており、住人を長く惹きつけられる融合・調和した魅力ある街にまでは成長していない | 学生 |
| 8 | 広島大学の放射光研究センターは低エネルギー放射光の利用で最先端の研究が行える施設として認知され、世界各地から研究者が訪れ優れた研究成果をあげているのはそのよい例である。本学の放射光施設のような既存施設においても、老朽化に伴う競争力の低下、来訪研究者への対応に十分な人手が割けない、などの問題が顕在化している。 | 広島大学 教員 |
| 9 | 東広島市は国内でIoT時代を拓くための重要な資質を有する地域である。東広島市は地震が少なく電力が安定している地域である。半導体工場が建設されていることがこれを証明している。産業基盤の構築のために優れた地理的立地条件を備えており、将来の発展の下地ができあがっている。 | 大学教員 |
| 10 | 東広島は、「いいモノはあるが、引き出すことと結びつけることがいまひとつ」のまちという認識である。広島市よりも東京に近く（空港経由で2時間程度）、グローバル人材を受け入れてきた経験も豊富で、そのうえ、手つかずの自然や酒蔵通りのような名所もある | 民間企業 |
| 11 | 広大よりも総合ランキングが上位に来る大学（東大・東工大・阪大・東北大・名古屋大・北海道大など）はみな「中心都市近辺の駅の目の前」に立地していること。広島大学は広島市から離れていることに加え、西条駅から”直ぐ”とは言えない中途半端な距離に立地しているため、十分に街にとけ込めていないことが多分野からの専門家を集めにくい大きな要因となっている | 広島大学 教授 |

(4) 分科会による課題認識

各分科会では、よりよい未来を創造するために改善すべき課題をターゲットイシューとして捉え、今後の方向性を含め、以下のとおり整理している。

表 各分科会による課題認識

| No. | 分科会 | 課題認識 |
|-----|---------------------------------|---|
| 1 | グラウンドデザイン・ ペルソナ・企業誘致 | |
| 2 | 共創コンソーシアム・ 資金調達・共同経営 | |
| 3 | TGO アプリ・スマートク ラスルーム・DX・都市 OS | <ul style="list-style-type: none"> ●データの収集/可視化 (BIM/CIM、都市 3D モデル、電力需給、移動、購買、趣味趣向など) ●行政のデジタル化 |
| 4 | 信託化・インキュベシ ョン拠点 | <ul style="list-style-type: none"> ●産学連携によるインキュベーション拠点機能の強化(オフィス、研究施設、データセンター、連携施設) ●国際的な産業・研究拠点機能の強化(研究者滞在施設、会議場) ●子育て、人材育成、国際交流機能の強化 ●経済・利便機能の強化(スポーツジム等) |
| 5 | モビリティ・ サブスク型交通サービ ス | <ul style="list-style-type: none"> ●広島大学周辺のコンパクトシティ化と併せた持続可能な輸送システムへのアクセスの提供 ●キャンパスの更なる国際化/多角化を見据えた域内交通の安全性維持(スローモビリティ、自動化などによる事故低減) ●カーボンニュートラルの実現に向け、データを活用した快適なモビリティ環境構築、行動変容促進 (広大及び広大周辺における電化による CO₂排出量低減) |
| 6 | カーボンニュートラル・ エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ●再エネ開発 ●省エネ・エネルギー転換 ●調整力(デマンドレスポンス・蓄電池・EV)整備 ●エネルギーマネジメントシステム構築 ●経済的に実現&継続可能なモデルの構築 ●学生・住民を巻き込んだ展開 |
| 7 | 通信インフラ・ ペーパーレス | <ul style="list-style-type: none"> ●費用対効果、継続性、利便性、セキュリティの高い、大学・企業の研究・開発を支える通信ネットワークの構築 ●地域の伝統的な作業、地元/誘致企業の研究・開発・プロダクトの展開を支える通信ネットワークの構築 ●安全・安心・豊かな暮らしを支えるネットワーク構築 (ソリューションと連携) |
| 8 | ヘルスケア | <ul style="list-style-type: none"> ●健康増進 <ul style="list-style-type: none"> ・「健康～未病～病気」の PHR 管理と利活用、健康アドバイス ・積極参加を促すポイント還元等のインセンティブ導入 ・生涯学習を含めたキャンパスライフを満喫できる CCRC の設置 ●まちづくりに溶け込んだ医療連携 <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ・医療統合データベースとの情報連携 ・医療機関同士や同一病院内の医療データ共有の垣根を取り払う ・ライフログ・PHR と病状の総合分析による病気のトリガー究明 ●地域課題解消 <ul style="list-style-type: none"> ・通院困難者の為の遠隔診療 ・外国人医療対応(東広島における医療ツーリズムの呼び水に) ・デジタルデバインド対応(ITリテラシーを持つ人によるサポート) |
| 9 | インターナショナル スクール・教育 DX | <ul style="list-style-type: none"> ●海外からの研究者等の誘致に伴う子弟教育の充実 ●国際競争力向上のため、質の高い教育の推進 (ハイレベルなインターナショナルスクールが不足) ●イノベーション、インキュベーションを生み出す人材育成システムの構築 ●高齢者層への生涯学習機会の創出 |

2.3 本構想の役割と位置づけ

2.3.1 役割

欧米の大学及び周辺では、大学立地を成長につなげている成功事例があり、その事例を参考として、東広島市《タウン（まち）》と広島大学《ガウン（学生・教授）》が一体となったまちづくりを推進することで、持続可能な地方都市として、「適散・適集社会」※の新たな都市モデルを構築し、最先端の技術を取り入れながら、イノベーションを創出し、世界から起業家や研究者が集まるまちづくりを実現させることが必要と言える。

そこで、本構想は、これを目的とし、進むべき基本的な方向性及び今後実施すべき諸施策のアイデアを総合的にまとめたものとして、「次世代学園都市構想」を作成する。

2.3.2 位置づけ

東広島市では、これまで賀茂学園都市建設や広島中央テクノポリス建設といった構想・計画を策定し、これらの計画に沿ったまちづくりを推進してきたところである。

しかし、昨今の東広島市をとりまく社会情勢は、大きく変化しており、デジタル技術を駆使し、取得した情報を上手に使いこなす Society 5.0 といった考え方や脱炭素社会へ向けてカーボンニュートラルへの取組みなど、国際社会に通用するようなまちづくりを行うためには、この流れをつかみ、そして、時流を踏まえた画期的な取組みを実施することが重要である。

よって、本構想は、こうした時流を睨みつつ、民間企業のアイデアを盛り込んだ東広島市の新たなまちづくりに向けての指標と位置づけ、社会情勢に応じて常にアップデートを模索するものとする。

2.3.3 目標年次

本構想の目標年次は、モデル地区に導入する機能などを踏まえ、短期、中期、長期の3期に分け設定する。

表 目標年次

| | 概ねの期間 | 目安 |
|------|--------|-------------|
| 短期目標 | 2～3年 | 令和7（2025）年 |
| 中期目標 | 5～10年 | 令和12（2030）年 |
| 長期目標 | 10～20年 | 令和22（2050）年 |

※ 適散・適集社会とは

コロナの流行で意識された三密のリスクに対し、適切な分散が必要であるが、一方では、「知の交換」を行ってイノベーションを進めるためには一定の集中・集積も必要といえる。このような二律背反である「分散」と「集中・集積」がバランスよく保たれた社会で、ポストコロナ社会に適応した社会。

2.3.4 構想の検討体制

構想策定に際し、関係者の多様な意見を聴く場を設けるため、東広島市次世代学園都市構想検討会議を設置する。

この検討会議の組織体制は、広島大学及び周辺エリアにおける構想であることを踏まえ、地域からの参画として、東広島商工会議所や三ツ城住民自治協議会に御協力いただきながら、市、大学に加えて、広島県や「Town & Gown」の取組みに強く賛同いただき、市及び大学と三者協定を締結した企業にも参画いただいている。

なお、検討会議では、必要に応じて構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くこともできる。

2.3.5 構想の推進体制

本構想を実現していくための推進母体として、令和4年3月に設立した「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」を位置づけ、研究開発、人材育成、スマートシティ実装研究などの活用を行いながら、その成果を広島大学及び周辺エリアに社会実装することでイノベーションを創出していくこととする。



図 「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」の形成イメージ